

人にやさしい色づかいをすすめる会主催 第9回 CUD 勉強会「色弱当事者とその家族のお話を聴く」

(2017/03/05・ソレイユプラザなごや)

■ディスカッションのまとめ■ (グループ毎のディスカッション内容を可能な限り網羅する形でまとめたもの)

①色弱者の見分けにくい色の組み合わせ・見分けやすい色の組み合わせ

◎見分けにくい色の組み合わせ

- ・濃い緑と茶色が見分けにくい。
- ・黄緑とオレンジが見分けにくい。
- ・薄紫とピンクと水色の配色が見分けにくい。
- ・濃い赤と黒が見分けにくい。
- ・水色とピンク。例えばトイレ表示の男水色、女ピンク。
- ・緑の地に黒い文字は見えにくい（近くでよく見れば分かるが）。
- ・エクセルの表のセルが黄色の網掛けで強調されていても、見分けにくい。
- ・光沢のある紙に印刷された色の識別が苦手である。
- ・照明によって（薄暗いとき等）、黒と紺が見分けにくいことがある（これはC型も同様）。
- ・周囲の明るさによっては、信号機の赤と黄を見分けにくいことがある。
- ・色相差があっても、明度差が無い色全般が見分けにくい。
- ・電化製品等のLEDの色。緑赤黄がみわけにくい。ONとOFFの緑と赤。
- ・白と淡いピンクはほとんど同じに見える。
- ・薄い色は見分けにくい。例えば、カッターシャツ等淡い色。
- ・区役所の申請書類。「戸籍謄本交付申請書」ピンク、「住民票交付申請書」水色、「印鑑登録交付申請書」クリーム色。
- ・黒板の赤いチョークが見分けにくい。黒板の赤チョークは見えていなかった。（教師の友人曰く、今は使用を避けることになっている）。
- ・ホワイトボードに書かれたマジックの色が見分けにくい。赤黒緑。光が反射して特に斜めから見るときは見にくい。
- ・ボールペンで書かれたインク色、赤黒緑。
- ・赤と黄色の組み合わせ。若干黄色に近い赤。赤に少しふっている黄色の組み合わせ。
- ・緑が混在していると見分けにくいようだ。
- ・リトマス試験紙で色の変化を読み取れなかった。乾いた状態なら見えるが、液体に浸して濡れると見えない。
- ・白い紙に黄色の蛍光ペンは見えにくい。蛍光ペンなら緑色が最も見やすい。

- ・ごみ収集カレンダーの色分けは、色名が書いてないので分かりにくい。
- ・そもそも駅の電光掲示板や時刻表などが見えづらいかどうか、分からない。自覚していないのだから。

◎見分けやすい色の組み合わせ

- ・黄色と水色は見分けやすい。
- ・明度差の大きい色は見分けやすい。
- ・黒板の黄色のチョークは見分けやすい。
- ・ゆうちょ銀行の「払戻請求書」赤、「入金票」青は見分けやすい。
- ・信号機がLEDに変わって見やすくなった。色よりどれが点灯しているかが分かることが重要だ。

②色弱者が困る事の具体例

- ・図やグラフで色分けされた部分の説明が、黒ではなく色の文字で示されていると読みづらいことがある。たとえば緑色で示された部分の説明として、緑色の文字で「緑は〇〇です」と書かれていることがある。分かりやすくしようとする作り手の意図はわかるが、黒で書いてもらった方が色弱者にとってはありがたい。
- ・ロンドンの地下鉄路線図が見えにくく、たいへん困った。ロンドンほどの国際都市の路線図でさえ配慮のないものがあり、海外での対応がどうなっているのか気になる。
- ・襖にシミや汚れが付いたので、目立たなくするために、周囲の色と同じ色のつもりで絵の具を重ねたら違う色を塗っていた。家族に指摘されて初めて気づいた。
- ・服の色選びには気を遣う。家族に確認してもらう。服を買いに行くときは、あらかじめ買いたい色を決めておき、それに近いDICのカラーチップを持っていき、店員に確認して買っている。
- ・先日役所から届いた還付金に関する通知書にあった赤い文字が読めず困った。それは、個人情報部分を覆ってあるシールの上に「開封する前に宛名の確認をお願いします」と書かれたものだった。シールには、下の文字が透けて見えるのを防ぐために、白地に黒の迷彩模様が印刷されており、その上に赤い文字が重ねられたため、見えにくくなっている。これはC型にとっても見えにくい。
- ・クリーム色のマークシート（解答用紙）に印刷された橙色の文字が見えにくかった。
- ・夫に茶色のバッグが見当たらないと言われ、一緒に搜したが実は深い緑色だったことが分かった。紛失物を搜すとき色名が違っていると見つけにくい。
- ・孫のおもちゃを片付ける時、形は同じで5種類の色別に分けて片付けるものがあるが、見分けられない色があるので困る。
- ・トマトやイチゴの熟れ加減がよくわからない。

- ・一灯式信号機の色が黄か赤か分かりにくい。
- ・トイレの使用サインの色がわかりづらい。
- ・電化製品のLEDの光全般が分かりづらい。
- ・朱肉の印影が赤だと判断できないので、オリジナルの資料をコピーと勘違いする。
- ・顕微鏡をのぞいたときに、見ているものと顕微鏡内のスケールの色が同じ場合判別しにくい。
- ・算数の教材用としてサイコロを手作りしたが、数の目の色は見えづらい赤を使わないようにした。

③ 色弱者の悩み事（過去に悩んだこと・現在の悩み事など）

- ・1970頃 受験で電子工学はNG、電気工学科はOKだった。電子工学は00からFFの最低64色の世界で、電気工学は+-2色の世界だから。
 - ・1978頃 夜間のデザインの専門学校で願書と公的医療期間の健康診断書が必要だった。保健所で受診したところ、赤緑色盲と書かれていた。そこで再検査をお願いしたところ、再検査なしで赤緑色弱と訂正されていた。人の一生を左右する診断書なのに、医師にとっては一枚の紙切れでしかないようだ。今でも医師には不信感しかない。専門学校は資格が得られる課程ではないので、入学できトラブルもなく修了できた。
 - ・理系に行きたかったが、当時は色弱者に入学制限があり、やむを得ず理系のなかでも色の識別能力を要求されない数学を選考した。
 - ・日常生活ではそれほど困ることはないが、色に関係する話題では条件反射的に引いてしまう。あえて自分から話題に出さないし、意見も述べないようにしている。
 - ・石原式検査表が読めず困ったが、答えを覚えることもできる。また、検査表を写真に撮ると文字を判読できる。
 - ・自動車の免許で、色弱でも取れるのか。
 - ・結婚相手とか、家族に色弱の遺伝のことや遺伝の法則の説明をしなければいけないか。
 - ・色弱の精密検査をしたが、色弱の型について言及されなかった。
 - ・服の色を家族に聞くこと、コーディネートをしてもらっていること。
- 子供が学校から案内をもらってきた際、内容が同じで父兄用と子供用が同じ内容で、色で父兄用と子供用に分かれていて子供が分からなかった。せめて文字で父兄用、子供用と文字で書いて欲しい。
- ・大学進学時、教師になるための大学受験資格がなく、受験したくてもできずショックだった。
 - ・新築やリフォームをした時など、家具・インテリア選びでは、バランスの悪い色選びをしてしまうのではないかと思い、人任せにするしかない。

④ 学校色覚検査復活の動き 新聞記事の感想

人にやさしい色づかいをすすめる会

- ・小学生の段階で1回検査を行い、自分の色覚を正しく知る必要はある。
- ・自分の特性を知ることが必要である。
- ・検査を一人ずつ個室でやれば良い。
- ・なれない職業を羅列するポスターは、良くないかも。
- ・復活反対の人は、グループ内ではいなかった。
- ・学校での色覚検査は1回でよい。
- ・学校色覚検査には疑問があるが、一度、色覚検査を受けられた方が良いと思う。
- ・学校色覚検査復活の動きは、過去、差別の原因となった一斉色覚検査の復活につながる所以反対である。
- ・日本眼科医会作成の「色覚検査のすすめ！」ポスターは職業制限が強調されており、誤解を生むのではないか。
- ・色弱者が制限される職業なんて書かれてしまうと職業の選択を子供自身が制限してしまう。間もなく大学生となり、その後の就活を考えると不安である。
- ・名古屋市医師会市民健康広報誌「ヘルシーなごや（57 平成 28 年夏号）」に、特集で「色覚検査を受けましょう」という記事があり、保管していたので資料提供します。
<http://www.nagoya.aichi.med.or.jp/health/pdf/57.pdf>
- ・高柳泰世『つくられた障害「色盲」』（朝日文庫・2002）に色弱者を入学制限する大学・学部リストが掲載されている。この本を何度も読み返した。

※人にやさしい色づかいをすすめる会への要望その他ご意見は、アンケートQ5欄にまとめてあります。
以上。